

国境を飛び越える 「モネの庭」



印象派を代表するクロード・モネの庭は、その絵画に劣らず、世界的に高く評価されています。今日では、高知県の北川村や浜名湖ガーデンパーク、京都のガーデンミュージアム比叡や東京の西武池袋本店の屋上等々、国内のそこかしこで「モネの庭」が再現されています。今回の発表では日本で再現された「モネの庭」を分析して、日本人がそこに何をもとめているのかについて考察を深めます。

令和7年 5 月 28 日【水】

時 間 16:50～18:00（開場：16:15）

対象者 どなたでもご参加いただけます

参加費 無料

会 場 京都産業大学 天地館 T204教室
〒603-8555 京都市北区上賀茂本山

申 込 令和7年5月27日(火) 12時申込締切
※締切延長しました
右のQRコードまたは本学HP「イベント情報」からお申込みください。※応募者多数の場合は抽選となります。



講師

MARES EMMANUEL

マレス エマニュエル

京都産業大学

文化学部 京都文化学科 准教授
日本文化研究所 所員

フランス生まれ。日本庭園の歴史や日仏の庭園文化交流を専門とする。昭和期に活躍した庭園史家・森蘊の資料をもとに、日本庭園観の形成や評価の変遷を読み解く研究を進めている。あわせて、庭園文化を伝える書籍やドキュメンタリー映画の企画・制作にも取り組む。著書に『縁側から庭へ：フランスからの京都回顧録』（あいり出版）など。

